

やまもと よしやす  
**山本 佳靖**さん (陶芸 / 鳥取県倉吉市)



【経歴】(2024年4月現在)

2001年 父の国造焼窯元・三代目山本浩彩に師事

【受賞歴ほか】

- 2013年 第22回日本陶芸展初入選  
日本伝統工芸中国支部展初入選  
鳥取県美術展覧会県展賞
- 2016年 同上
- 2017年 第24回日本陶芸展入選  
田部美術館茶の湯の造形展奨励賞
- 2019年 日本伝統工芸中国支部展鳥取県知事賞
- 2020年 日本伝統工芸展初入選  
田部美術館茶の湯の造形展優秀賞
- 2021年 日本伝統工芸展入選(準会員)  
日本伝統工芸中国支部展岡山放送賞
- 2023年 日本伝統工芸展NHK会長賞

山本佳靖氏(以下「四代目」)は、明治時代に起源を持つ「国造焼(鳥取県倉吉市)」の窯元に生まれ、高校卒業後20歳ごろから、父で国造焼の陶芸家・山本浩彩氏(以下「三代目」)に師事し、本年で作陶21年を迎えた国造焼の陶芸家である。

国造焼は、代々個人作家的な考えに立ち、日常生活で使用する器類だけでなく、作品性の強い壺類なども多く制作してきた窯元である。三代目は、焼締の技法で「壺の表面に大胆に窯変で茜色の風景画を描く」といった作風で知られているが、四代目は、茜色ではなく、焦げたような黒色やグレー、ときに黄色など、さまざまな色彩に挑戦している。それらの大ぶりの作品は、近年公募展でも入選を重ね、評価が高まりつつある。

また、造形コンセプト(細長い形状や面取り)や表面への加飾技法(マスキングテープでのストライプのデザイン、飛び鮑など)も多く試みるなど、作品性の強い大型の壺や花生けにとどまらず、小さな普段使いの器類にも積極的に取り組み、個展も多く開催している。

2023年、満を持して発表した「焼締窯変壺」が、第70回日本伝統工芸展でNHK会長賞を受賞した。この作品は、釉薬を使わず、土と炎が持つ力強さで作られており、青味を帯びた窯変の妖しさも醸すような美しさが作品にインパクトを与えている。

四代目の作品は、代々受け継いできた伝統の技と細やかな独自の表現が光る逸品で、土の持つ力強さ、神秘性、そして可能性を追求しており、今後の活躍が大いに期待できる。

受賞の言葉

この度はエネルギー美術賞という大変栄誉ある賞を頂戴致しまして誠にありがとうございます。

振り返れば20歳のころ、家業が陶芸をしていたこともあり、自ずとこの道を志すようになりました。先代である父に師事して始めた当初は、基本となる轆轤の仕事をはたすに練習をしていました。そうした中で、自然と格闘しているような、または戯れているような感覚が楽しくて、どんどんとのめり込んでいきました。

窯の仕事である民芸の器も制作していますが、近年は伝統工芸の作品も手掛けています。同じ土でも焼成の方法によっていろいろな表情を見せる陶肌の面白さに魅了され、研究と制作の日々を送っています。

たくさん失敗もあり挫けそうになりますが、この度の賞をいただき、今まで行ってきたことが無駄ではなかったと報われたような気持ちです。そして、土と共に生きる喜びを感じながら、さらに精進していきたいと決意を新たにしているところです。

最後になりますが、いつも私の活動を支えてくださっている皆さまと、このような機会を与えてくださいました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



花器作品制作風景



線文シリーズ制作風景



第64回日本伝統工芸中国支部展 岡山放送賞 受賞作品